

子育て支援策の 抜本的改善を



軸屋 豊議員

軸屋 豊議員 昭和の町村合併以降、人口が減少の一途をたどっている。今こそ、行政は本腰を入れて、子育て家庭に対して積極的な支援策を提供するとともに、地域全体で支援する態勢づくりを急ぐべきではないか。

北村町長 今後も総合振興計画を基本に就業の場の確保を進めながら、企業誘致、住宅促進、少子化対策等に取り組みしていきたい。

少子化対策の改善を

軸屋議員 過疎化の抑制

策は、産業振興と少子化対策であり、特に少子化対策の支援策は他市町村と比較して、支給額、支給条件とも劣るようだが、改善の考えはないか。

町長 出生祝金制度や乳幼児医療費助成制度の効果は向上しているのですが、今後は行政改革のなかで改善していきたい。

国民の生命食である

米作農家を守れ

軸屋議員 三〇数年間、

続いてきた国の米作保護政策を、平成十八年度で廃止し、作付、流通・販売をすべて自由化し、地方自治体、生産農家、農業者団体の自主的生産体制に移行することを決定した。このようなときこそ、町独自の米作政策を

立ち上げ、産業基盤である稲作経営安定を図るべきではないか。

町長 需要に応じた米の計画生産と収益性の高い安定した稲作経営の促進を図り、地域の実情に応

じた町独自の施策を展開しながら、稲作振興を図りたい。

電気柵の事業枠 拡大と駆除員の 処遇改善を

軸屋議員 紫尾山系は、

鳥獣等の生息環境が悪化し、農作物に甚大な被害を及ぼしている。地元では、鳥獣駆除班への出勤依頼や電気柵、箱ワナ等の設置により被害防止対策に懸命である。紫尾山系の保護区、禁止区全面解除がなされているが、減少が見られないようだ。今後の対策は。

町長 被害状況を確認するとともに、箱ワナなどの通年使用の検討を行い、銃器との併用で駆除に取り組みたい。

軸屋議員 被害防止には電気柵が有効なようだが、設置要望に応えられるよう事業枠の拡大はできないか。また、駆除員への日当、弾丸等の支援措置はできないか。

町長 電気柵の町単独補助と駆除員の処遇についても検討したい。



イノシシに荒されたサトイモ畑（船木地区）